

モノづくりと検査・計測

代表取締役社長 川嶋 鋭裕
Toshihiro Kawashima



本年6月26日付けで社長に就任いたしましたので、ご挨拶させていただきます。

最近、いろいろな分野で社会の安全、安心を脅かす製品不具合事例が続けて報道され、これらを防ぐ防波堤としての検査・計測業界に対する関心もかつてないほど強まっている状況下、この分野の仕事に従事するということが、身が引き締まる思いしております。

私は、長年、技術者として回転機械の開発に従事し、中でも航空機用ジェットエンジンの構造設計と信頼性評価作業が一番長い間関係しました。

この業務は、設計・解析作業とそこで用いた技術の妥当性実証ということが非常に重要となります。航空機用エンジン開発では、性能試験に加えて、当該エンジンが空を飛んでも大丈夫ということ（耐空性）を地上での各種試験により証明することが求められ、特に、新技術が導入された部位では実部品を使った実証試験が不可欠です。この耐空性証明試験では計測技術があらゆるところで用いられ、まさにエンジン開発を支える柱になります。より厳しい環境下で、より複雑な形状部分の状態量をより高精度で計測する、さらには、今まで出来なかった現象計測を可能にする技術・機器さえも工夫し開発する、そういった努力を積み重ねて、設計・解析ツールの特性を検証し、それらのツールを活用して設計された部品の健全性を実証して初めて新エンジンは耐空性を有するというお墨付きが与えられます。この結果可能となる飛行中の各種運転試験を経て製品としてのエンジンが完成し、お客様の手に渡って運用される段階

になると、高精度かつ高い信頼性に裏打ちされた検査技術で経年変化を監視しつつ、部品の交換、修理の必要性とその時期を見極めて飛行の安全確保に努めていくこととなります。

私はこうした経験を経てきて、「より進化した設計・解析ツールを備えること」と「その精度を現場・現物で実証出来る計測技術を有すること」は高い信頼性を持つ製品設計のための車の両輪であり、さらに、世に出した製品が安全な状態を維持していることを保証する検査業務まで含めると、設計からサービス・メンテナンスまで製品の一生に責任を持つべきモノづくり業界においては、高度な検査・計測技術を持つことが企業競争力を維持し強化するために必要不可欠な要素であるとの強い信念を持っています。

「キーコンポーネントの開発・生産能力を有する総合エンジニアリング企業体」であるIHIグループの中で、弊社は検査・計測・実験技術関連分野を主要事業領域とし、これらを応用した機器・システム開発も手がけております。今後も、各技術分野の高度化を絶えず図りその成果を活かして、社内外のニーズに応える検査・計測・実験技術、機器・システムを提供してまいりますとともに、検査手法・手順・ルールも進化させて世の中の高い信頼に応えられる業務体制を構築しつつ、並行して必要な人材確保・育成にも努め、Customer satisfaction（顧客満足度）を更に向上させるよう努力いたす所存ですので、一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。